

幸せになるため教育を実現するための具体的事業例

基本的には教育委員会で考えてもらう案件とは考えますが、幸せ教育会議として考え方の共有化を図ること、自由な発想によるアイデア出しを目的として作成しました。

1. 子どもたちが自分にとっての幸せとは何かを自ら考える力を養う

①幸せ週間の創設（市内一斉に各小中学校で実施）

■「自分の幸せとは何か」、「自立」を考える授業（機会）を与える

- ・実施内容は各学校の判断でよい
- ・先生自身が考え実施内容を検討することでよい（学習指導要領に縛らずに）
- ・まず来年度実施してみて、教材費など必要であれば令和6年度から予算化
 - ※アンケートの結果ではある程度の枠組みを作ってもらいたいと意見は複数あった
 - ※三浦委員が提案した未来シート（10年後の自分など）を作成、毎年見直していく取り組みは、幸せ週間で授業を実施するのは具体的取組として提案可能か。

ポイント)

- ・市内一斉に実施することでの機運醸成・インパクト
- ・学校ごとに創意工夫し実施することで、それぞれの実情や特色に応じた実施が可能（実施方法、テーマなど）
- ・先生たちが自ら考え、実施していくことを積み重ねることで、教育の質の向上につながる

②教員の資質向上

■毎年度の夏休期間に講演会を実施

- ・「幸せ」に特化せずに、教育に関する有識者等の講演
- ・令和5年度は予算化（ふるさと納税（市長おまかせ）を充てるか）
 - ※具体的には工藤先生を8月に招聘する事業を進める。

ポイント)

- ・先生たちに様々な教育関係の有識者の講演を行うことで、意識改革、モチベーション向上が図られ、幸せ教育の推進につながる

■授業指導、研究の実施

- ・まずは道徳の授業の中で取り組むことが現実的であるとするのであれば、例えば、三浦先生に10回／年の事業指導を実施してもらう。
- ・25,000円×10回＝250,000円
- ※教員は力量向上のために教科指導を求めているため、モデル的に教科指導を取り入れることによって、教員の心的負担の軽減と、質の向上を目指すもの。

2. 幸せ教育を実践するための教員の負担軽減

①小学校高学年における英語専科教員の配置

■7校は県配置、6校は市配置

- ・2,350,000円×6人＝14,100,000円
- ・令和5年度から配置

②学校地域協働支援員の配置

■令和5年度から中学校に1人配置（5人）①

令和6年度から小学校に1人配置（13人）②

$$\text{①}+\text{②}=\text{18人}$$

$$\cdot (\text{R}5) 2,709,162 \text{円} \times 5 \text{人} = 13,545,810 \text{円}$$

$$\cdot (\text{R}6) 2,709,162 \text{円} \times 18 \text{人} = 48,764,916 \text{円}$$

③学校給食費管理システム導入

■令和5年度からテスト実施、令和6年度から本格実施

学校が行っている学校給食費の徴収業務等を市が直接実施する。

- ・(R5) 14,134千円
- ・(R6) 11,681千円

※学校からの児童・生徒へのアプローチの回数を減らし、教育委員会、市役所から直接連絡するシステムを推進（学校メルマガ、Eメール、携帯ショートメールなど）活用や口座振替登録のオンライン化）

ポイント)

- ・先生たちの負担軽減を図る。
- ・①については、市長公約の達成にもつながる

3. その他

教員の負担軽減のために、子どもの習熟度に応じて問題を出すオンラインドリルの導入とあわせて、幸せについて考えるオンライン教材の開発を目指す。